

全ての働く人々に安全・健康を
～Safe Work, Safe Life～



コロナ禍で経営者が考える 安全衛生の人づくり

第80回全国産業安全衛生大会 (in東京)
製造業安全対策官民協議会 特別セッション
令和3年10月28日 (木)

中央労働災害防止協会
理事長 竹越 徹

コロナ禍における労働安全衛生活動について

コロナ禍で再認識

「安全・健康」の大切さは不変

トップの使命・役割はより重要になってきている！

経営トップの『安全第一』を真に追求する姿と見える化

3つのキーポイント

① 「安全第一」の言葉や 標語に第二、第三を明示

品質・生産・納期は大事。

しかし、第一は**人の命に関わる「安全」**である。

② 安全衛生の確保には投資 が必要

設備の維持保全・更新、安全衛生教育に要する費用はコストではなく**将来に生きる投資**

③ 安全は「経営のトップ プライオリティ」との認識

「業務を支え」、「ガバナンスを高め」、「人を育てる」

ポストコロナの新たな時代における安全衛生人材の育成

ポストコロナにおいては、以下のような取組みを企画し、実行できる安全衛生人材を育成することが重要

リアルとオンラインの融合

効率的・効果的な安全衛生教育への投資⇒安全衛生教育の目的、対象者、地域的広がり等を考慮して、オンラインによる安全衛生教育を有効活用

バーチャルの活用

災害発生件数の減少に伴い、若手職員を中心に危険感受性が低下⇒VRや危険体感施設の有効活用

ビッグデータの活用

全体的・画一的な指導からパーソナルなケアへ⇒労働者の体力や性格、健康状態に合わせて、個々人又はグループの特性に応じた安全指導や健康管理を推進(安全行動調査やメンタルヘルスチェックリストの活用が有効)

コミュニケーションの一層の深化

業務のDX化が進展する中で組織内外のコミュニケーションは極めて重要⇒会社の安全衛生方針、組織目標等の理解促進／安全衛生対策の着実な推進に向けた上司・同僚・部下との一体感の醸成、第三者の視点・目線・声を取入れる

人材育成

技術サービス

情報発信

ゼロ災運動

- 人間尊重
- 安全の底上げを期す「人づくり」
- ゼロを追求するプロセスの重視
- 作業員から経営層に至る全員参加
- 職場活動の活発化



危険体感教育

- 現場力の向上（危険感受性の向上、行動変容、「気付き」をもとにした設備改善等）
- 未熟練労働者の啓発
- 技術・技能の伝承（的確な操業差配）
- リアルとバーチャルの組合せ

● 新型コロナウイルス感染予防対策を徹底した事業展開

令和3年4月～11月 オンライン研修(セミナー)約70講座を開催

コロナ禍においても長年培ってきたノウハウや専門性を最大限生かして、企業ニーズを先取りした人材育成サービスをご提供しております。



中災防の安全衛生活動支援 ～技術サービス～

人材育成

技術サービス

情報発信

安全行動調査

- 日常の行動に関する78項目の質問に「はい、いいえ」で回答
- 回答者の「エラー傾向」「パーソナリティーの傾向」を把握
- 一人ひとりの「気づき」を促す
- 結果は不安全行動による災害防止など、事業場のさまざまな安全衛生活動に活用



安全行動調査の個人プロフィール例

中災防ストレスチェックサービス (ヘルスアドバイスサービス)

- ストレスチェック実施からその後の結果説明、職場環境の評価・改善、社内研修（講師派遣）を総合的にサポート
- ストレスチェックデータを活用したオーダーメイドのセミナーを提案



ストレスチェックの個人レポート例